

2026年3月期 第3四半期決算概要資料

三菱HCキャピタル株式会社

2026年2月13日

 三菱HCキャピタル

- ✓ ただいまより、三菱HCキャピタル「2026年3月期 第3四半期決算説明会」を開始いたします。
- ✓ 本日はご説明をさせていただきます、CFOの佐藤でございます。
- ✓ 本日は、皆さまご多用のところ、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
本日の説明を通して、当社の決算内容や事業の状況につきましてご理解を深めていただければ幸いです。
- ✓ 本日はまず、先週13日(金)に開示いたしました「決算概要資料」の内容をご説明いたします。
その後、皆さまからご質問を賜りたく存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- ✓ それでは、「決算概要資料」の2ページ、ハイライトをご覧ください。

- 本資料には、当社または当社グループの業績、財政状態、その他経営全般に関する予想、見通し、計画、目標等の将来に関する記述が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点で入手可能な情報から得られた当社の仮定や判断に基づくものであり、その性質上、一定のリスクや不確実性等が内在しており、将来に実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。このような事態の原因となりえる不確実性やリスクの要因は多数あります。
- 本資料に記載された計数は、「四半期」または「四半期別」の表記がない限り、当四半期連結累計期間の値です。また、それぞれ切り捨てて表示しており、端数が合計と合致しないものがあります。当社は、本資料に記載された情報を最新のものに随時更新する義務も方針も有しておらず、今後、予告なく変更されることがあります。
- 本資料は、日本国内外を問わず、投資誘導を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は利用者ご自身の判断と責任において行われますようお願いいたします。
- 本資料をご利用の結果生じたいかなる損害も、当社は一切責任を負いません。

本資料における表記・計数の定義

■ MHC	:三菱HCキャピタル	■ アセット関連損益	:カスタマーソリューション・環境エネルギー・航空・ロジスティクス・不動産セグメントにおける保有資産に係る売上総利益ベースの売却損益および減損等(時価評価損益を含む)の合算値
■ MHCUK	:Mitsubishi HC Capital UK (欧州のリースおよび金融会社)	■ インカムゲイン	:「アセット関連損益控除後の売上総利益」+ 「営業外損益(償却債権取立益を除く)」
■ MHCA	:Mitsubishi HC Capital America (米州のリースおよび金融会社)	■ 純利益	:親会社株主に帰属する四半期または当期純利益
■ EE	:European Energy(再生可能・次世代エネルギー会社)	■ ROA	$: \frac{\text{純利益}}{(\text{前期末総資産額} + \text{当期末総資産額}) \div 2}$
■ JII	:ジャパン・インフラストラクチャー・イニシアティブ (2023年4月にMHCが吸収合併)	■ ROE	$: \frac{\text{純利益}}{(\text{前期末自己資本} + \text{当期末自己資本}) \div 2}$
■ JSA	:Jackson Square Aviation(航空機リース会社)	■ セグメント資産残高	:「営業資産残高」+「持分法投資残高」+「のれん」+「投資有価証券等」
■ elfc	:Engine Lease Finance(航空機エンジンリース会社)		
■ CAI	:CAI International(海上コンテナリース会社)		
■ PNW	:PNW Railcars(鉄道貨車リース会社)		
■ 御幸ビル	:御幸ビルディング(2024年9月に連結除外)		

純利益

2026/3期3Q
実績

1,349億円

前年同期比
(増減率)

**+479億円
(+55.1%)**

業績予想

1,600億円

進捗率

84.4%

コメント

☑ 不動産、航空セグメントが好調なこと、海外カスタマーセグメント* (米州)の貸倒関連費用が大幅に減少したことに加え、連結子会社の決算期変更による増益効果等により、前年同期比479億円の増益。

☑ 織り込み済みの連結子会社の決算期変更による増益効果があり業績予想に対して84.4%と高進捗ながら、第4四半期には一部のセグメントで費用が増加する見込みのため業績予想は据え置き。

* 当第1四半期より「海外地域」セグメントの名称を「海外カスタマー」に変更

2

- ✓ 第3四半期の決算実績につきましては、不動産セグメントや航空セグメントが好調に推移したこと、また、海外カスタマーセグメントの米州事業において、貸倒関連費用が大幅に減少したこと、加えて、連結子会社の決算期変更による増益効果もありまして、純利益は前年同期比479億円増益の1,349億円となりました。
- ✓ この中で、米州事業の貸倒関連費用につきましては、税引前ベースで前年同期比120億円の費用減少となっており、期初に想定した以上のペースで減少しております。
- ✓ また、決算期変更による増益効果につきましては、第1四半期、第2四半期にもご説明させていただきましたので、本日は詳細なご説明を割愛いたしますが、8ページに詳しく記載をしておりますので、後ほどご覧ください。
- ✓ 通期業績予想に対する進捗率は、計画に織り込み済みの決算期変更の影響もあり、84.4%と高進捗ではございますが、第4四半期には、海外カスタマーセグメントにおける事業構造改革費用などの費用増加を見込んでいるため、業績予想は据え置きとしております。
- ✓ ページが飛びまして、5ページにお進みください。

01 | 2026年3月期 第3四半期決算概要

02 | セグメント関連情報

03 | 2026年3月期 業績予想

04 | 参考情報

01 | 2026年3月期 第3四半期決算概要

02 | セグメント関連情報

03 | 2026年3月期 業績予想

04 | 参考情報

		(a)	(b)	(c)=(b)-(a)	(d)=(c)/(a)	(e)
		25/3期 3Q	26/3期 3Q	前年同期比		
(億円)				増減	増減率	増減 (除、為替影響*)
1	インカムゲイン	2,954	3,372	① +418	+14.2%	+434
2	アセット関連損益	515	404	② -111	-21.6%	-110
3	純利益	870	1,349	③ +479	+55.1%	+487
4	契約実行高	25,038	23,984	④ -1,054	-4.2%	-1,092

		25/3期末	26/3期 3Q末	前期末比		
(億円)				増減	増減率	増減 (除、為替影響*)
5	セグメント資産残高	109,356	116,029	⑤ +6,672	+6.1%	+3,394

* 決算取り込み時に適用する為替換算レートにおける当期と前期との差による影響(適用レートはP.40に記載)。
なお、現時点の対米ドルの為替感応度は1円の円安につき純利益で約5.0億円の増益影響、対ポンドでは約0.9億円の増益影響

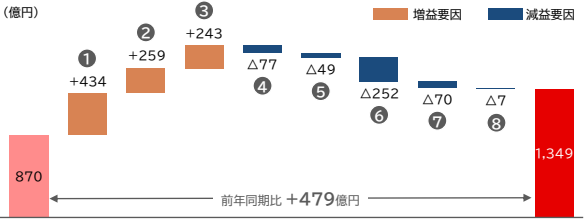
主な増減要因

- ① インカムゲイン
✓ 航空セグメントの好調、連結子会社の決算期変更による増益効果等により増益。
- ② アセット関連損益
✓ 不動産セグメントで前年同期に計上した御幸ビルの大口売却益(370億円)剥落により減少。
なお、この剥落影響を除くと、不動産セグメントで複数の大口売却益計上等により増益。
- ③ 純利益
✓ インカムゲインの増加に加え、海外カスタマーセグメント(米州)の貸倒関連費用の大幅減少等により増益。
- ④ 契約実行高
✓ 海外カスタマーセグメントが欧州事業の伸長により増加したもの、航空、ロジスティクスセグメントにおける前年同期の大口実行の反動減等により前年同期比減少。
- ⑤ セグメント資産残高
✓ 主に航空、海外カスタマーセグメントの資産積み上げにより前期末比増加

- ✓ こちらでは、決算実績の主な数値をお示しております。
- ✓ まず、①のインカムゲインにつきましては、前年同期比で418億円の増益となっております。
これは主に、好調な航空セグメントが牽引したことによりまして、連結子会社の決算期変更による増益効果を除いても、増益となったものでございます。
- ✓ また、ここには記載ございませんが、カスタマーソリューションセグメントも収益性の改善が進み、しっかりとインカムゲインを伸ばしております。
- ✓ ②のアセット関連損益につきましては、前年同期にあった御幸ビルディングの大口売却益(370億円)の剥落により、前年同期比で減益となっておりますが、その一過性要因を除いた実質ベースでは、不動産セグメントにおいて複数の大口売却益を計上したことなどにより、前年同期比で増益となっております。
- ✓ ③の純利益につきましては、冒頭のハイライトでご説明した通り、インカムゲインの増加に加え、海外カスタマーセグメントの米州事業における貸倒関連費用の大幅な減少が寄与し、前年同期比で479億円の増益となりました。
- ✓ ページが飛びまして、7ページにお進みください。

純利益の増減要因

純利益の増減*1（+：利益に対してプラス、△：利益に対してマイナス）



25/3期 3Q	インカム ゲイン	アセット 関連損益 ^{*2}	貸倒関連 費用	経費	特別損益 ^{*2}	その他 (税金費用等) ^{*2}	御幸ビル 関連 ^{*2}	為替影響	26/3期 3Q
(億円)	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比	除、為替影響		26/3期3Q	前年同期比		
インカムゲイン	2,954	3,372	+418	3,388	①	+434			
アセット関連損益 ^{*2}	145	404	+259	404	②	+259			
貸倒関連費用	396	152	-244	153	③	-243			
経費	1,672	1,746	+73	1,750	④	+77			
特別損益 ^{*2}	74	24	-49	24	⑤	-49			
その他(税金費用等) ^{*2}	304	553	+249	556	⑥	+252			
御幸ビル関連 ^{*2}	70	-	-70	0	⑦	-70			
純利益	870	1,349	+479	1,357		+487			
為替影響 ^{*3}					⑧	-7			

*1 「インカムゲイン」～「特別損益」は税引前、税金費用は「その他(税金費用等)」に含む
また、「インカムゲイン」～「その他(税金費用等)」は「御幸ビル関連」、「為替影響」を除いた値
*2 「アセット関連損益」「特別損益」「その他(税金費用等)」の25/3期3Q実績値から御幸ビルの大口売却・株式譲渡に係る損益を控除し、それらの損益を「御幸ビル関連」に集約
（「御幸ビル関連」70億円の内訳：アセット関連損益370億円、特別損益△206億円、その他(税金費用等)93億円）

主な増減要因*4（+：利益に対してプラス、△：利益に対してマイナス）

- ① インカムゲイン

 - ✓ 航空 +242億円 新規資産積み上げやエンジンの高稼働率維持等によるリース料収入の増加、elfcの決算期変更による影響
 - ✓ ロジスティクス +128億円 海上コンテナの資産積み上げによるリース料収入の増加、CAIおよびPNWの決算期変更による影響
 - ✓ ガスターリジェン +39億円 収益性が高い資産の積み上げ等による増加
- ② アセット関連損益*2

 - ✓ 不動産 +265億円 複数の大口売却の実行
- ③ 貸倒関連費用

 - ✓ 海外カスタマー +116億円 米州の商用トラック事業での費用減少
 - ✓ 環境エネルギー +74億円 前年同期に計上した国内再生エネプロジェクト案件に係る大口費用の剥落
- ④ 経費

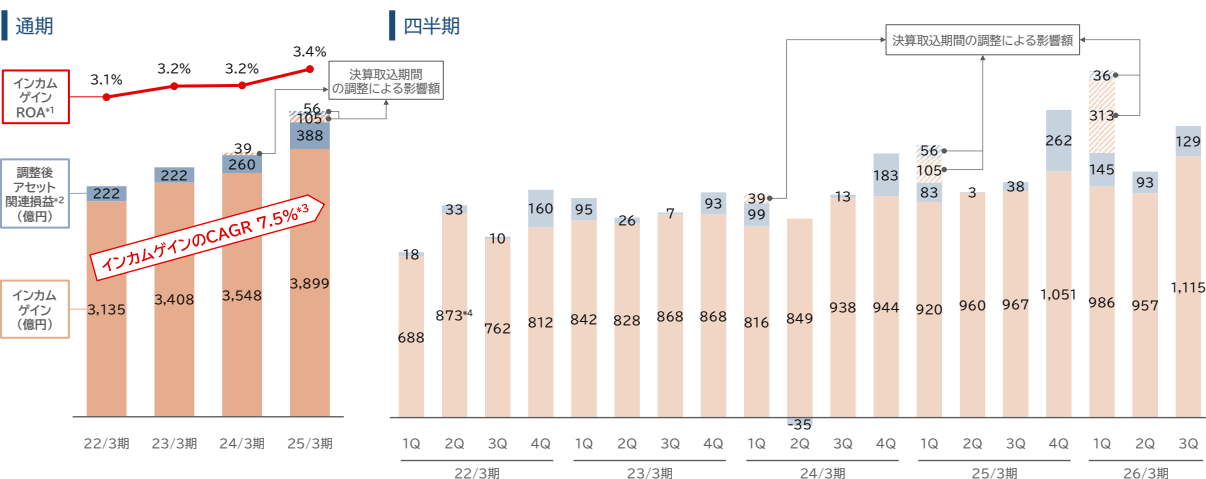
 - ✓ ロジスティクス △30億円 CAIおよびPNWの決算期変更による影響
 - ✓ 航空 △22億円 JSA、elfcにおける営業活動推進に伴う費用の増加
- ⑤ 特別損益*2

 - ✓ 航空 △23億円 前年同期に売却したMHC保有機のリース持分売却益の剥落
 - ✓ 環境エネルギー △20億円 IJLII保有の投資有価証券の評価損失等および前年同期に計上した海外インフラ案件の持分売却益の剥落
- ⑥ その他(税金費用等)*2

 - ✓ 複数セグメント 増益による税金費用の増加

*3 純利益ベースの為替影響額
*4 各増減値は為替影響を除いた値

- ✓ インカムゲインとキャピタルゲインを経常的に享受する両輪経営を実践
- ✓ 収益基盤となるインカムゲインの着実な増加に加え、資産入替えによるキャピタルゲインも実現



*1 分子(決算取込期間の影響を除くインカムゲイン)÷分母(期中平均総資産)

*2 アセット関連損益に一定の調整を行った値。特別損益に計上されたアセット関連損益と同質の売却益を加算、一方でアセット関連損益に計上したものの実質的には子会社売却の一環と見なすべき売却益を控除する調整を実施

*3 決算取込期間の影響を除くインカムゲインのCAGR

*4 2022/3期2Qのインカムゲインは、航空セグメントでの一過性収益を計上したことなどにより前後の四半期よりも利益が増加

7

- ✓ ここでは、2021年4月の経営統合以降の、インカムゲインとアセット関連損益の推移をお示ししております。
- ✓ ご覧のとおり、収益の基盤であるインカムゲインは、四半期ごとに見ますと、多少の変動はあるものの、年度で見ますと、年率7.5%の成長率で着実に増加していることがわかりいただけると思います。
- ✓ また、インカムゲインを分子としたROAも年々改善しており、利益の「額」だけではなく「収益性」も着実に向上しております。
- ✓ また、そのインカムゲインに加えて、アセット関連損益も、年間を通して見ますと、安定的に増加しておりまして、当社が志向している資産回転型ビジネスによる事業成長を実現しています。
- ✓ では次に、セグメント関連につきましてご説明いたします。
- ✓ ページが飛びまして、11ページにお進みください。

- ✓ 2026年3月期より、航空、ロジスティクスセグメントの子会社elfc、CAIおよびPNWの決算期を12月から3月に変更。
- ✓ この変更により2026年3月期1Qの決算対象期間が2025年1月～6月までの6カ月間となった結果、期ズレ調整期間(同年1月～3月)のセグメント利益として228億円(航空セグメント:89億円、ロジスティクスセグメント:62億円、調整額:75億円)の増益効果が発生。

PL影響

- ① 25/3期1Q
前期は航空セグメントの子会社JSAの決算期を12月から3月に変更。前年同期では、JSAの2024年4月～6月実績(3カ月間)に加え、期ズレ解消期間の2024年1月～3月実績(3カ月間) も取り込んだことで、航空セグメントおよび調整額(本部勘定)で下表のPL影響が発生。
- ② 26/3期1Q
当期では、航空、ロジスティクスセグメントおよび調整額(本部勘定)で下表のPL影響が発生。

(億円)	① 25/3期1Q			② 26/3期1Q				②-① 前年同期比(増減)			
	航空	調整額	合計	航空	ロジ スティクス	調整額	合計	航空	ロジ スティクス	調整額	合計
インカムゲイン	+63	+42	+105	+109	+106	+97	+313	+46	+106	+54	+207
アセット関連損益	+56	-	+56	+30	+6	-	+36	-26	+6	-	-20
貸倒関連費用	0	-	0	-	0	-	0	0	0	-	0
経費	+28	-	+28	+25	+30	-	+55	-3	+30	-	+27
特別損益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他(税金費用等)	+30	+8	+38	+24	+19	+21	+65	-5	+19	+12	+26
セグメント利益	+60	+33	+94	+89	+62	+75	+228	+29	+62	+42	+133

01 | 2026年3月期 第3四半期決算概要

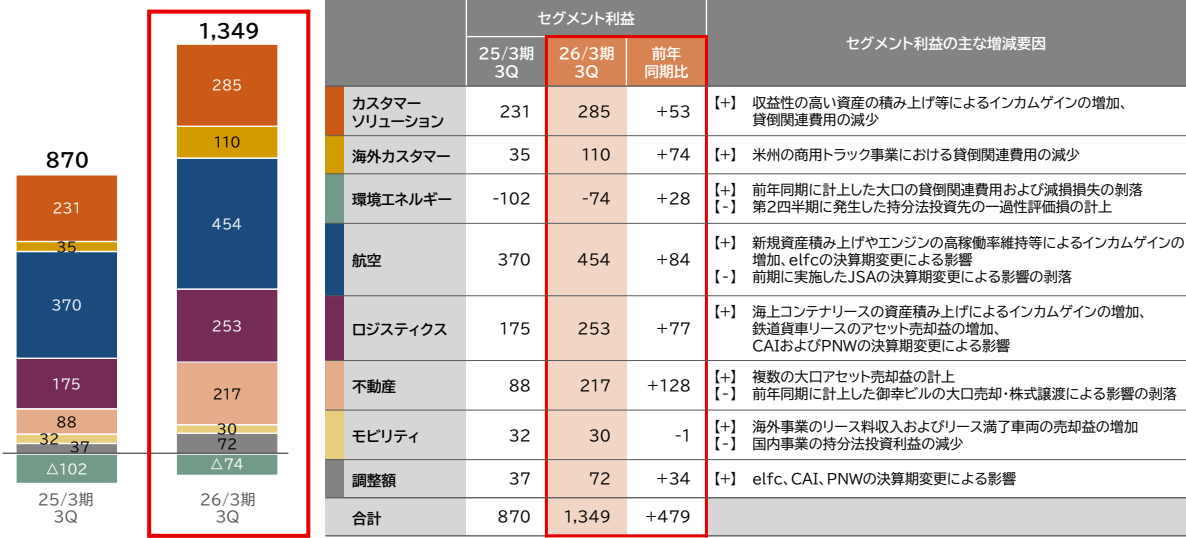
02 | セグメント関連情報

03 | 2026年3月期 業績予想

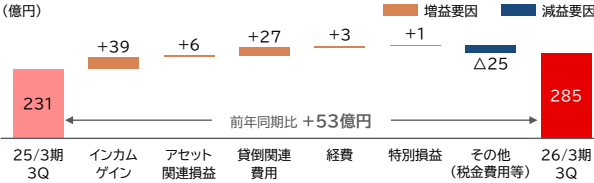
04 | 参考情報

セグメント利益の増減要因

セグメント利益の増減（億円）



セグメント利益の増減（+：利益に対してプラス、△：利益に対してマイナス）



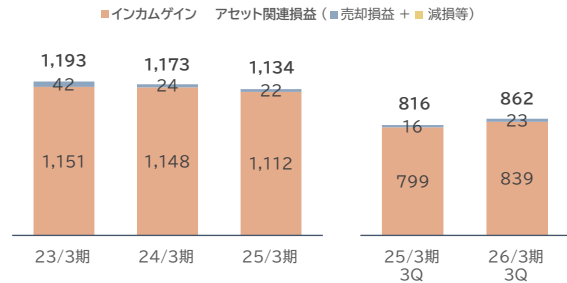
(億円)	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比
インカムゲイン	799	839	+39
アセット関連損益	16	23	+6
貸倒関連費用	39	12	-27
経費	478	474	-3
特別損益	35	36	+1
その他(税金費用等)	101	126	+25
セグメント利益	231	285	+53

セグメント資産残高(億円)	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比
合計	30,045	29,969	-76
リース	24,292	24,313	+20
割賦・貸付	4,033	4,010	-23
その他	1,719	1,646	-73

コメント

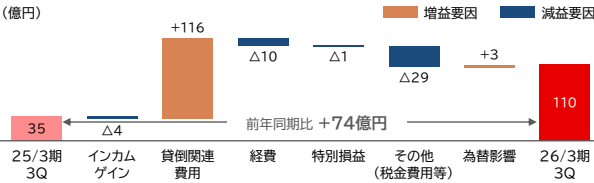
- インカムゲインは、積水リースの売却による減収影響があったものの、収益性が高い資産の積み上げなどにより、前年同期比増加。
- 貸倒関連費用は、当期の費用が低位で推移しているうえ、前年同期に計上した個別案件による大口費用の剥落等により前年同期比減少。

インカムゲイン・アセット関連損益の推移(億円)



- ✓ まずは、カスタマーソリューションでございます。
- ✓ 先ほど少しお話ししましたが、収益性の高い資産への入れ替えが着実に進み、インカムゲインを伸ばしたことに加え、貸倒関連費用も低い水準に抑えることができたことで、セグメント利益は前年同期比53億円の増益となりました。
- ✓ この2025中計では、ビジネスモデルの進化・積層化という目標を掲げてまいりましたが、このカスタマーソリューションセグメントにおきましても、その成果が着実に現れてきていると考えております。
- ✓ 12ページにお進みください。

セグメント利益の増減（+：利益に対してプラス、△：利益に対してマイナス）



(億円)	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比	除、為替影響	
				26/3期3Q	前年同期比
インカムゲイン	1,041	1,040	-1	1,037	-4
貸倒関連費用	281	163	-118	164	-116
経費	705	716	+10	715	+10
特別損益	1	-	-1	-	-1
その他(税金費用等)	21	50	+29	50	+29
セグメント利益	35	110	+74	106	+71
為替影響*2				3	

セグメント資産残高(億円)	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比	除、為替影響	
				26/3期3Q末	前期末比
合計	30,749	34,554	+3,804	32,147	+1,398
欧州(MHCUK)	17,324	20,918	+3,594	19,176	+1,852
米州(MHCA)	10,192	10,604	+411	10,127	-65
中国	656	443	-213	421	-235
ASEAN	2,576	2,588	+12	2,423	-152

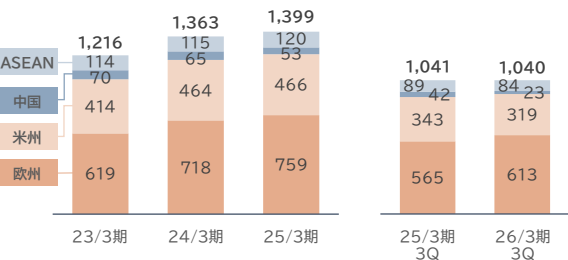
*1 海外カスタマーセグメントの実績であり、航空・ロジスティクス等の他セグメントに属する海外の実績は含まない

*2 セグメント利益ベースの為替影響額

コメント

- インカムゲインは、欧州以外の地域でリース料収入等が減少したものの、欧州の事業伸長により前年同期比ほぼ横ばい。
- 貸倒関連費用は、米州の商用トラック事業における費用が大幅に減少したことにより前年同期比減少。
- 経費は、欧州での費用増加により前年同期比増加。

インカムゲインの推移(億円)



- ✓ 海外カスタマーセグメントでございます。
- ✓ こちらも先ほど少しお話ししましたが、前年度に非常に高い水準となった米州事業の貸倒関連費用は、今年度に入り、大きく抑えることができておりまして、期初からの四半期ごとの推移を見ても、着実に減少しております。
- ✓ また、海外カスタマーセグメントにおきましては、これに加え、欧州事業においても、着実な事業伸長を果たしており、セグメント利益は前年同期比74億円の増益となりました。
- ✓ なお、米州事業の貸倒関連費用につきましては、14ページに詳細を掲載しておりますので、後ほどご覧ください。
- ✓ また、欧州事業につきましては、先月、1月26日に事業別説明会を実施いたしました。この時のプレゼン資料、ならびに当日の質疑応答スクリプトを当社ホームページに掲載しておりますので、後ほど、是非ご覧ください。
- ✓ ページが飛びまして、15ページにお進みください。

主要計数(億円)											
	25/3期 3Q	26/3期 3Q	前年同期比	除、為替影響			25/3期 3Q	26/3期 3Q	前年同期比	除、為替影響	
				26/3期3Q	前年同期比					26/3期3Q	前年同期比
欧州(MHCUK)						中国					
インカムゲイン	565	613	+47	602	+36	インカムゲイン	42	23	-19	23	-19
貸倒関連費用	49	62	+13	61	+12	貸倒関連費用	8	0	-8	0	-8
経費	368	390	+21	383	+14	経費	32	29	-2	30	-2
特別損益	-	-	-	-	-	特別損益	0	-	0	-	0
その他(税金費用等)	44	44	0	43	0	その他(税金費用等)	1	0	-1	0	-1
セグメント利益	103	116	+12	113	+10	セグメント利益	0	-7	-7	-7	-7
為替影響*				2		為替影響*				0	
米州(MHCA)						ASEAN					
インカムゲイン	343	319	-24	327	-16	インカムゲイン	89	84	-4	83	-5
貸倒関連費用	212	91	-120	93	-118	貸倒関連費用	11	9	-1	9	-1
経費	236	223	-12	229	-7	経費	67	72	+4	72	+5
特別損益	0	-	0	-	0	特別損益	1	-	-1	-	-1
その他(税金費用等)	-26	2	+29	2	+29	その他(税金費用等)	2	3	+1	3	+1
セグメント利益	-78	1	+79	1	+79	セグメント利益	10	0	-10	-1	-11
為替影響*				0		為替影響*				1	

* セグメント利益ベースの為替影響額

米州運送セクターの市況について

外部環境

- ✓ 需給バランスの改善は引き続き緩やかで、数年かけて徐々に回復していく見通し。
- ✓ 業界レポートによると、2025年12月には大寒波により貨物の滞留が生じたことで一時的に需給バランスがタイトになり、スポットレートが急上昇。一過性の要因によるもので、同程度の上昇は続かない見通し。

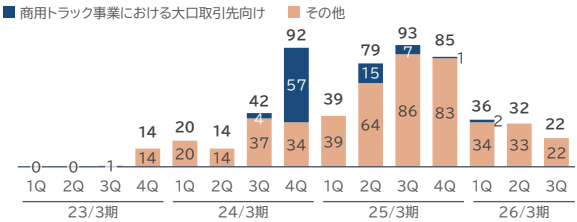
課題・打ち手

- ✓ 審査基準の厳格化・モデルの見直し、期中管理の強化、中古車両等の販売強化など、**新たな貸倒関連費用の発生を抑制し、延滞債権からの回収を極大化**するための諸施策を引き続き推進。
- ✓ 事業ポートフォリオに占める商用トラック事業の構成割合を下げることで業績変動を抑え、**リスク・リターン**の改善を推進中。同事業割合は2024年3月末の47%から2025年12月末には**35%に減少**。

現状・見通し

- ✓ 2026/3期も需給バランスの大幅な改善は見込めないが、2023年以前に実行した延滞化率の高い債権の減少が進んでいることから、**通期の貸倒関連費用は前期比で減少する見通し**。
- ✓ 実際に、第3四半期累計の貸倒関連費用は前年同期比で**大幅に減少**しており、現時点では**期初見通しを上回るペースで費用が減少**。

米州における四半期別の貸倒関連費用の推移(億円)



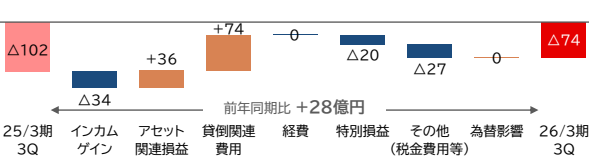
米国における大型トラックのスポットレート*1*2の推移



*1 運送業者の収入源である運賃
*2 (出所)ACT Research社「Freight Forecast: Rate and Volume Outlook (January 15, 2026)」をもとにMHC作成

セグメント利益の増減（+：利益に対してプラス、△：利益に対してマイナス）

（億円）



(億円)	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比	除、為替影響	
				26/3期3Q	前年同期比
インカム	25	-8	-34	-8	-34
アセット	-40	-4	+36	-4	+36
貸倒	73	-1	-74	-1	-74
経費	59	60	0	60	0
特別	7	-12	-20	-12	-20
その他	-37	-10	+27	-10	+27
セグメント	-102	-74	+28	-74	+27
為替影響*				0	

セグメント資産残高（億円）

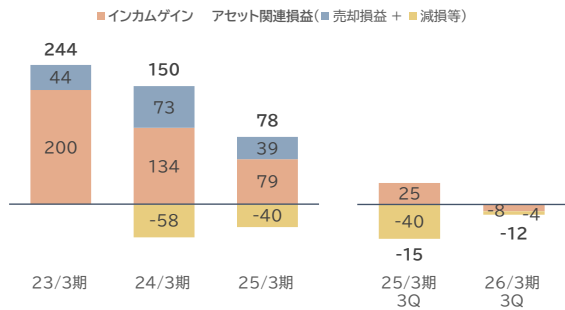
	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比	除、為替影響	
				26/3期3Q末	前期末比
合計	4,863	4,923	+60	4,816	-47
再エネ	576	583	+6	572	-4
再エネ	4,040	4,082	+42	3,986	-54
国内	2,177	2,173	-3	2,173	-3
海外	1,863	1,909	+46	1,812	-50
その他	246	257	+11	257	+11

* セグメント利益ベースの為替影響額

コメント

- インカムゲインは、第2四半期に計上した持分法投資先の評価損等により前年同期比減少。
- アセット関連損益は、前年同期に計上した国内太陽光発電案件に係る減損損失の剥落により前年同期比増加。なお、第4四半期にはアセット売却益の計上を見込む。
- 貸倒関連費用は、前年同期に計上した国内再エネプロジェクト案件に係る大口費用の剥落により前年同期比減少。

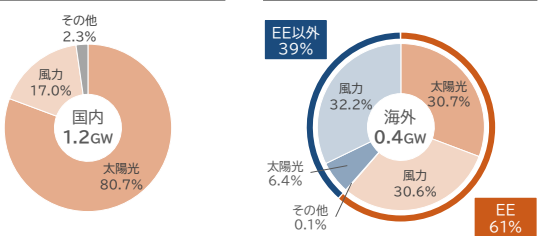
インカムゲイン・アセット関連損益の推移（億円）



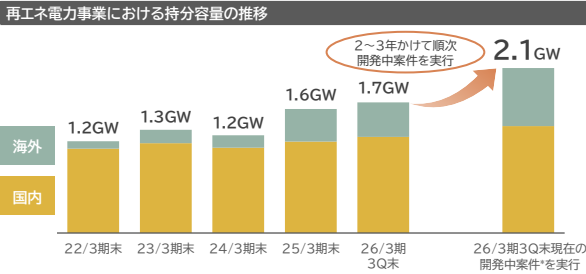
- ✓ 環境エネルギーセグメントにつきましては、前年同期に計上した大口の貸倒関連費用や減損損失の剥落などにより、セグメント利益は28億円改善しておりますが、一方で、海外の持分法投資先で一過性の評価損を計上したことや、出資先であるEuropean Energyの、のれんの償却を含む持分法損失の取り込みなどにより、第2四半期に続いて、損失計上となりました。
- ✓ なお、European Energy単体の業績を見ますと、前年同期は年度累計で赤字となっておりますが、今年度は累計黒字で推移しており、業績は改善しております。
- ✓ また、環境エネルギーセグメントとしては、この第3四半期まで、アセット売却益の計上がございましたが、第4四半期にはアセット売却益の計上を見込んでおります。
- ✓ ページが飛びまして、17ページにお進みください。

再生電力事業における運転開始済みの持分容量(MW)			
	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比
合計	1,638	1,727	+88
太陽光	1,102	1,194	+91
国内	978	1,024	+46
海外	124	169	+45
風力	507	503	-3
国内	200	216	+16
海外	307	287	-20
その他	29	29	0

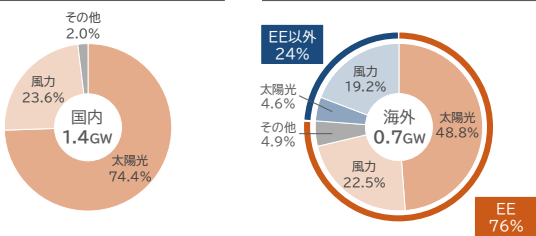
運転開始済みの持分容量内訳(26/3期3Q末)



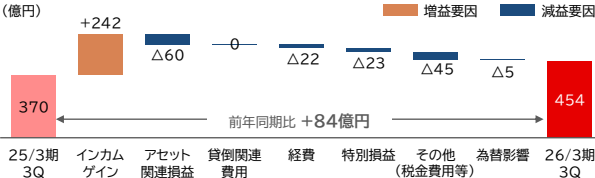
* 26/3期3Q末時点で獲得済み未実行案件のみ反映した見直し
(26/3期3Q末以降の新規受注案件は考慮せず)



運転開始済み+開発中案件*の持分容量内訳(26/3期3Q末)



セグメント利益の増減（+：利益に対してプラス、△：利益に対してマイナス）



(億円)	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比	除、為替影響	
				26/3期3Q	前年同期比
インカムゲイン	537	769	+231	779	+242
アセット関連損益	123	62	-60	63	-60
貸倒関連費用	-9	-9	0	-9	0
経費	194	214	+19	217	+22
特別損益	23	-	-23	-	-23
その他(税金費用等)	129	172	+42	174	+45
セグメント利益	370	454	+84	460	+90
為替影響*				-5	

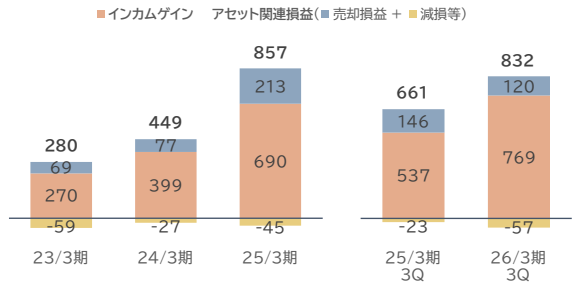
セグメント資産残高(億円)					
	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比	除、為替影響	
				26/3期3Q末	前期末比
合計	24,481	26,817	+2,335	26,075	+1,594
航空機リース(JSA)	17,127	18,333	+1,205	17,508	+381
エンジンリース(elfc)	6,872	8,055	+1,183	8,138	+1,266
航空機リース(MHC)	481	428	-53	428	-53

* セグメント利益ベースの為替影響額

コメント

- インカムゲインは、前期に実施したJSAの決算期変更による影響の剥落があったものの、新規資産積み上げやエンジンの高稼働率維持等によるリース料収入の増加に加え、当期に実施したelfcの決算期変更による影響等により前年同期比増加。
- アセット関連損益は、好調な市況を背景に航空機、エンジンともに売却実績を積み上げるも、航空機の減損損失の増加および前期に実施したJSAの決算期変更影響の剥落により前年同期比減少。
- セグメント資産残高は、エンジンを中心に需要が強いマーケット状況を踏まえ積極的な投資実行により前期末比増加。

インカムゲイン・アセット関連損益の推移(億円)



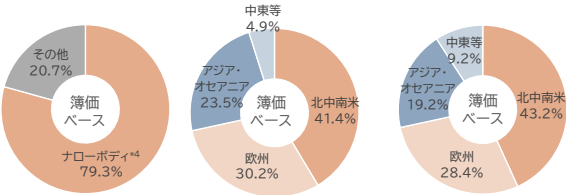
- ✓ 航空セグメントにつきましては、新規案件の積み上げや、航空機エンジンの高稼働率によるリース料収入の増加などにより、セグメント利益は前年同期比84億円の増益となりました。
- ✓ 子会社の決算期変更による増益効果が、セグメント利益を29億円押し上げておりますが、その効果を除いても、大きな増益となっており、引き続き好調を維持しております。
- ✓ ページが飛びまして、19ページにお進みください。

航空関連資産の保有状況			
	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比
航空機数(JSA)	334機	322機	-12機
保有機数*1	248機	245機	-3機
購入／売却機数	42機／18機	13機／16機	-
成約済み機数	86機	77機	-9機
平均機齢(JSA)*2	5.0年	5.3年	+0.3年
平均残リース期間(JSA)*2	7.0年	7.0年	0.0年
新型機比率(JSA)*2*3	76.1%	78.3%	+2.2pt
エンジン基数(elfc)	400基	429基	+29基
新型エンジン比率(elfc)*3	74.3%	78.3%	+4.0pt

航空関連資産の内訳(26/3期3Q末)

①航空機アセットタイプ別・地域別*2

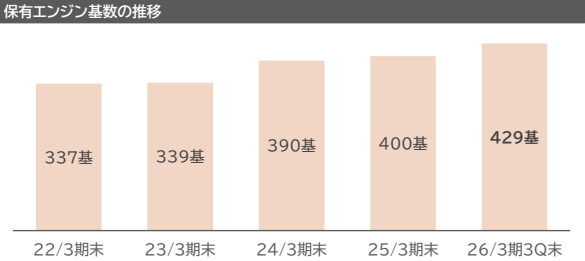
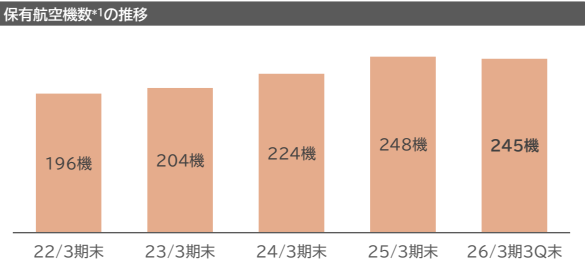
②航空機エンジン地域別*2



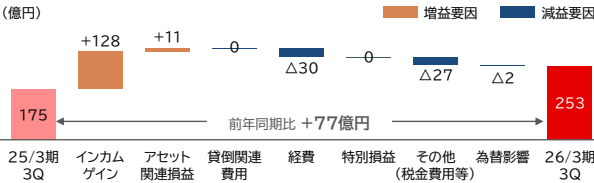
*1 当期から保有機数に管理機数を加算
*2 当期から算出基準を変更

*3 保有機(基)に占める新型機種(旧型機種)に比べて燃費効率が高く、CO₂排出量が少ないの割合
対象機体:A320NEO、B737MAX等 対象エンジン:PW1100G、LEAP-1A/1B等

*4 主に近距離線で使用する単通路機



セグメント利益の増減（+：利益に対してプラス、△：利益に対してマイナス）



(億円)	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比	除、為替影響	
				26/3期3Q	前年同期比
インカムゲイン	281	405	+124	410	+128
アセット関連損益	40	51	+10	51	+11
貸倒関連費用	0	0	0	0	0
経費	89	119	+29	120	+30
特別損益	-	-	-	-	-
その他(税金費用等)	55	82	+27	83	+27
セグメント利益	175	253	+77	256	+80
為替影響*				-2	

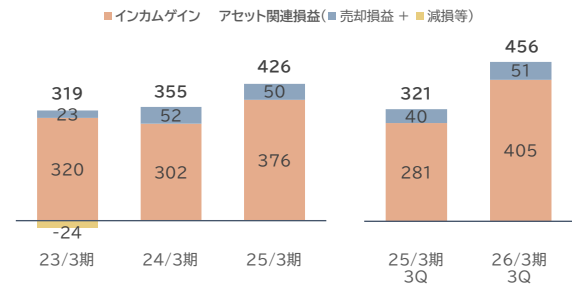
セグメント資産残高(億円)					
	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比	除、為替影響	
				26/3期3Q末	前期末比
合計	12,893	12,952	+58	12,925	+31
海上コンテナ(CAI)	9,791	9,769	-21	9,870	+79
鉄道貨車(PNW)	2,946	3,082	+136	2,947	+1
船舶	156	100	-55	107	-49

* セグメント利益ベースの為替影響額

コメント

- インカムゲインは、海上コンテナの資産積み上げによるリース料収入の増加に加え、CAIおよびPNWの決算期変更影響等により前年同期比増加。
- アセット関連損益は、鉄道貨車のアセット売却益の増加、CAIおよびPNWの決算期変更影響等により前年同期比増加。
- 経費は、CAIおよびPNWの決算期変更の影響等により前年同期比増加。

インカムゲイン・アセット関連損益の推移(億円)

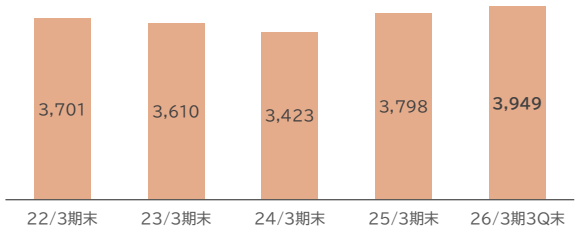


- ✓ ロジスティクスセグメントにつきましても、子会社の決算期変更による増益効果に加え、海上コンテナの資産積み上げによるリース料収入の増加や、鉄道貨車のアセット売却益の増加などにより、セグメント利益は前年同期比77億円の増益となりました。
- ✓ なお、子会社の決算期変更の影響は62億円の増益効果となっておりますが、これを除いた実質ベースでも増益となっております。
- ✓ また、第2四半期にもご説明いたしましたが、海上コンテナリースの稼働率につきましては、昨年度から今年度前半にかけては、中東情勢の混乱長期化や米国関税政策を受けた貨物輸送需要の前倒しなどにより、稼働率が高水準で推移しておりましたが、足元ではやや低下傾向にございます。
- ✓ 市況の変動はありますが、これまで培ってきたインテリジェンスと営業力を活かした、メリハリの利いた投資によって、高稼働率の維持と安定的な成長をめざしてまいります。
- ✓ ページが飛びまして、21ページにお進みください。

ロジスティクス関連資産の保有状況

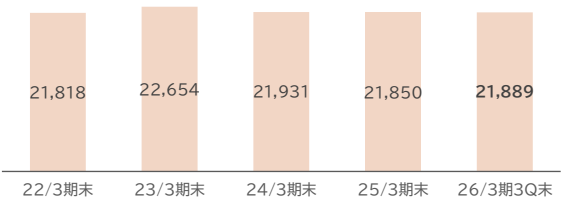
	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比
海上コンテナフリート数 (千TEU ^{*1})	3,726	3,842	+115
海上コンテナフリート数 (千CEU ^{*2})	3,798	3,949	+150
鉄道貨車車両台数(両)	21,850	21,889	+39

海上コンテナフリート数(千CEU)の推移



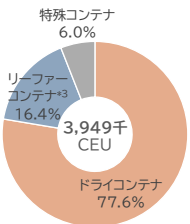
*1 TEU:Twenty Foot Equivalent Unitの略(20フィートドライコンテナ換算の容量単位)
*2 CEU:Cost Equivalent Unitの略(コンテナ数量のコスト換算単位。20フィートドライコンテナを1CEUとし、同コンテナ価格を基準に各種コンテナ価格を相対比較して数量を算出)

鉄道貨車車両台数(両)の推移

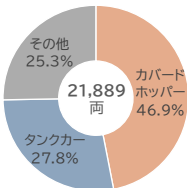


ロジスティクス関連の保有資産内訳(26/3期3Q末)

①海上コンテナのアセットタイプ別

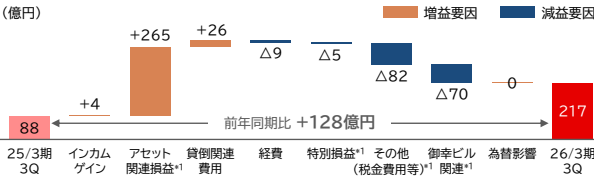


②鉄道貨車のアセットタイプ別



*3 冷凍・冷蔵用のコンテナ

セグメント利益の増減（+：利益に対してプラス、△：利益に対してマイナス）



(億円)	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比	除、為替影響	
				26/3期3Q	前年同期比
インカムゲイン	95	100	+4	99	+4
アセット関連損益*1	5	271	+266	270	+265
貸倒関連費用	12	-14	-26	-14	-26
経費	47	57	+9	57	+9
特別損益*1	5	-	-5	-	-5
その他(税金費用等)*1	28	111	+82	111	+82
御幸ビル関連*1	70	-	-70	-	-70
セグメント利益	88	217	+128	216	+127
為替影響*2				0	

セグメント資産残高(億円)	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比	除、為替影響	
				26/3期3Q末	前期末比
合計	5,705	6,019	+314	6,007	+301
国内	5,204	5,566	+362	5,566	+362
ファイナンス事業	2,330	2,533	+203	2,533	+203
投資事業	2,874	3,033	+159	3,033	+159
海外(ファイナンス事業)	342	308	-34	295	-47
のれん等	158	144	-13	144	-13

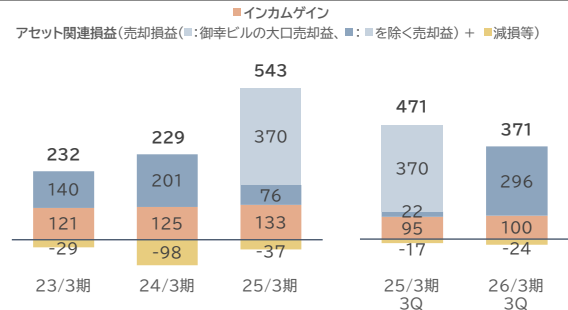
*1 「アセット関連損益」「特別損益」「その他(税金費用等)」の25/3期3Q実績値から御幸ビルの大口売却・株式譲渡に係る損益を控除し、それらの損益を「御幸ビル関連」に集約（「御幸ビル関連」70億円の内部：アセット関連損益370億円、特別損益△206億円、その他(税金費用等)93億円）

*2 セグメント利益ベースの為替影響額

コメント

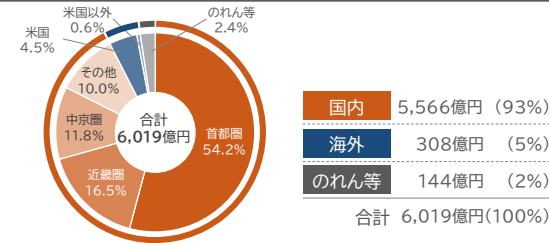
- アセット関連損益*1は、複数の大口売却実行により前年同期比増加。
- 貸倒関連費用は、ファイナンス事業を子会社に移管した際に、適用する一般貸倒引当率が低下したことなどにより前年同期比減少。
- その他(税金費用等)*1は、利益の増加にともなう税金費用の増加により前年同期比増加。

インカムゲイン・アセット関連損益の推移(億円)

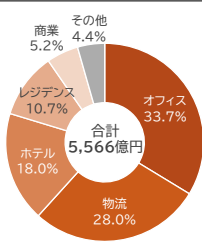


- ✓ 不動産セグメントにつきましては、前年同期にあった御幸ビルディングの売却による増益効果の剥落があったものの、複数の大口アセット売却益などにより、セグメント利益は前年同期比128億円の増益となりました。
- ✓ 今年度のアセット売却は高水準で推移しておりますが、同時に、それを上回る新規実行により資産の積み上げも、着実にっております。
- ✓ ページが飛びまして、23ページにお進みください。

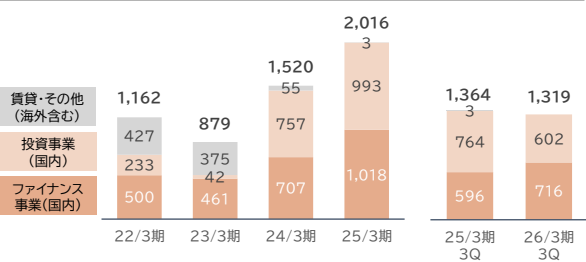
不動産の地域別セグメント資産残高内訳(26/3期3Q末)



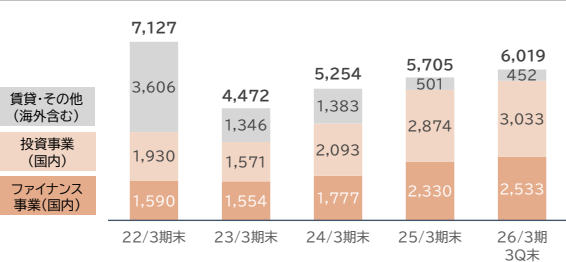
国内のアセットタイプ別セグメント資産残高内訳(26/3期3Q末)

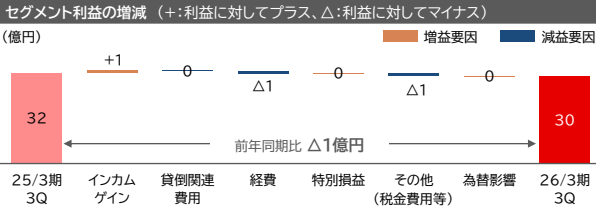


契約実行高の事業別推移(億円)



セグメント資産残高の事業別推移(億円)





(億円)	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比	除、為替影響	
				26/3期3Q	前年同期比
インカムゲイン	48	49	+1	49	+1
貸倒関連費用	0	0	0	0	0
経費	18	19	0	19	+1
特別損益	-	0	0	0	0
その他(税金費用等)	-2	0	+1	0	+1
セグメント利益	32	30	-1	30	-1
為替影響*1				0	

セグメント資産残高(億円)					
	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比	除、為替影響	
				26/3期3Q末	前期末比
合計	588	633	+44	649	+60

*1 セグメント利益ベースの為替影響額

コメント

- インカムゲインは、国内事業の持分法投資利益の減少があったものの、海外事業のリース料収入およびリース満了車両の売却益の増加等により前年同期比横ばい。

車両管理台数(千台)			
	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比
モビリティセグメント*2	355	357	+2
【参考】当社Gr.合算*3	646	643	-3

*2 持分法適用関連会社の車両管理台数を含む

*3 モビリティ以外のセグメントに属する車両管理台数も含めた合算値(参考値)

- ✓ モビリティセグメントにつきましては、国内事業において、持分法投資利益が減少したものの、海外事業のリース料収入やリース満了車両の売却益が増加したことにより前年同期比でほぼ横ばいとなりました。
- ✓ では次に、業績予想につきましてご説明いたします。
- ✓ ページが飛びまして、25ページにお進みください。

01 | 2026年3月期 第3四半期決算概要

02 | セグメント関連情報

03 | 2026年3月期 業績予想

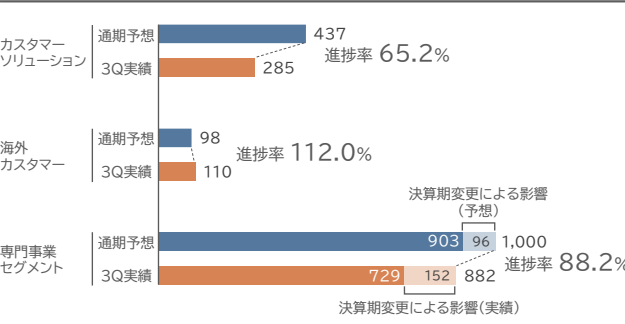
04 | 参考情報

- ✓ カスタマーソリューションの第3四半期のセグメント利益は、収益性の高い資産の積み上がりなどにより前年同期比で伸長しているが、期初計画比では新サービスの収益実現などの進捗が遅れており、通期予想(セグメント利益437億円)をやや下振れる見込み。
- ✓ 海外顧客の第3四半期のセグメント利益は、通期予想(セグメント利益98億円)を超過。第4四半期には一定規模の事業構造改革費用の計上を予定しているものの、通期予想はやや上振れる見込み。
- ✓ 第3四半期の純利益は、期初より織り込み済みの連結子会社の決算期変更による増益効果があり業績予想(純利益1,600億円)に対して84.4%と高進捗ながら、第4四半期には事業構造改革費用も含めて費用が増加する見込みのため業績予想は据え置き。

業績予想			
	25/3期 実績	26/3期 予想 ^{*1}	増減 (増減率)
1 純利益	1,351億円	1,600億円	+248億円 (+18.4%)
2 ROA	1.2%	1.4%	+0.2pt
3 ROE	7.8%	8.8%	+1.0pt
4 年間配当金 【配当性向】	40円 【42.5%】	45円 【40.4%】	+5円 【-2.1pt】

^{*1} 想定為替レートは\$1=140円、£1=185円

【参考】セグメント利益の進捗状況(億円)^{*2}



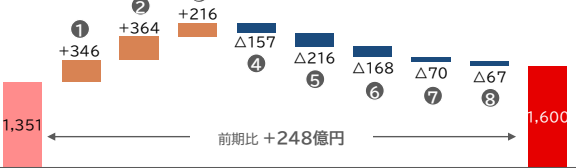
^{*2} 3つの分類に含まれない調整額(本部勘定)は、通期予想63億円に対し3Q実績72億円、進捗率113%

- ✓ 今年度の業績予想につきましては、冒頭ご説明した通り、第3四半期までの進捗率は84.4%と高進捗ですが、業績予想に変更はございません。
- ✓ 進捗状況を事業ごとに見ますと、カスタマーソリューションセグメントは、着実な事業伸長を果たしているものの、意欲的な目標だったこともあり、通期予想であるセグメント利益437億円に対してはやや下振れる見通しとなっております。
- ✓ 新サービスの収益実現にはもう少し時間がかかる見通しですが、ヘルスケアや半導体分野などの成長領域における資産の積み上げや、手数料収入の拡大など、収益性向上への取り組みは着実に進捗しております。
- ✓ 海外顧客セグメントにつきましては、この第3四半期の時点で、通期予想であるセグメント利益98億円を上回っておりますが、第4四半期に、事業構造改革費用の計上を見込んでいることから、通期予想に対する上振れは小幅となる見込みでございます。
- ✓ 私からのご説明は以上となります。

【再掲】2026年3月期 純利益(予想)の前期比 増減要因

✓ 2025年5月に公表した2026年3月期予想値に関して、左下表内に為替影響の調整前の予想値を追記し、再掲。

純利益の増減（+：利益に対してプラス、△：利益に対してマイナス）
（億円）



25/3期 (実績)	インカム ゲイン	アセット 関連損益	貸倒関連 費用	経費	特別 損益	その他 (税金費用等)	御幸ビル 関連 ^{*1}	為替 影響	26/3期 (予想)
(億円)	25/3期実績	26/3期予想	前期比	除、為替影響		26/3期予想	前期比		
インカムゲイン	4,005	4,171	+166	4,352	①	+346			
アセット関連損益	278	625	+346	643	②	+364			
貸倒関連費用	495	259	-235	278	③	-216			
経費	2,223	2,293	+70	2,380	④	+157			
特別損益	227	9	-218	11	⑤	-216			
その他(税金費用等)	511	653	+141	680	⑥	+168			
御幸ビル関連 ^{*1}	70	-	-70	-	⑦	-70			
純利益	1,351	1,600	+248	1,667		+316			
為替影響 ^{*2}				⑧	-67				

*1 25年3月期に計上した御幸ビルの大口売却・株式譲渡に係る増益効果の剥落影響
*2 純利益ベースの為替影響額

主な増減要因

- ① インカムゲイン

 - ✓ カスタマーソリューション 資産増加による収益増加、高収益ビジネスの拡大等
 - ✓ ロジスティクス CAIが前期に積み上げた資産によるリース料収入増、
ならびに、CAIおよびPNWの決算期変更による増益影響等
- ② アセット関連損益

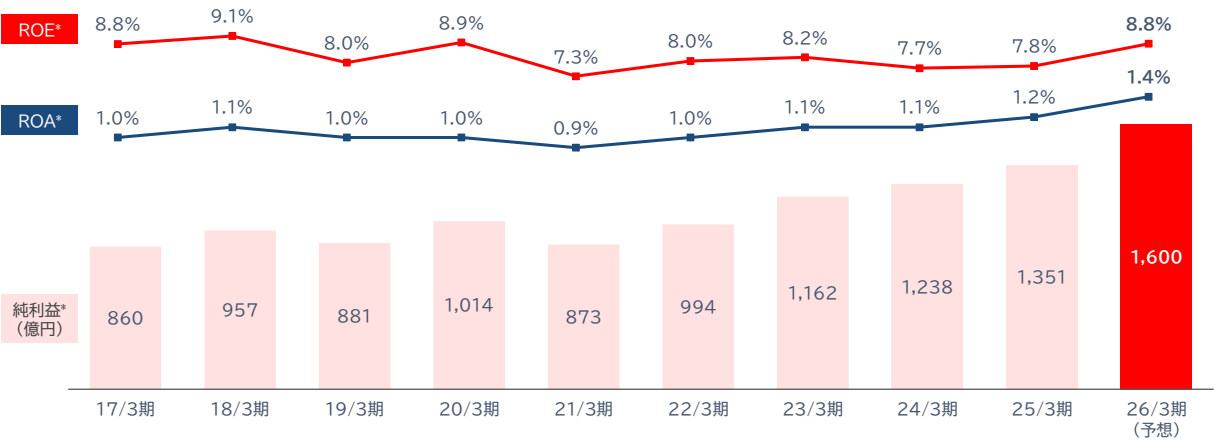
 - ✓ 不動産 アセット売却益の増加、米国不動産の時価評価損減少等
 - ✓ 環境エネルギー アセット売却益の増加、前期に計上した減損損失の剥落
- ③ 貸倒関連費用

 - ✓ 海外カスタマー 米州、ASEANにおける貸倒関連費用の減少等
 - ✓ 環境エネルギー 前期に計上した大口費用の剥落
- ④ 経費

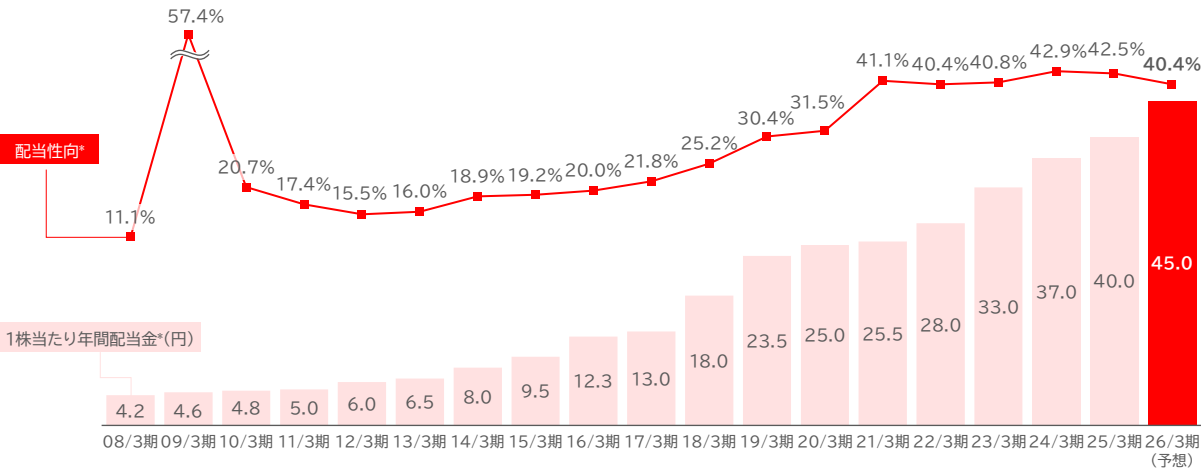
 - ✓ カスタマーソリューション 営業活動推進に伴う費用の増加
 - ✓ ロジスティクス CAIおよびPNWの決算期変更による費用増影響等
- ⑤ 特別損益

 - ✓ 環境エネルギー 前期に計上した海外インフラ案件に係る有価証券売却益の剥落等
 - ✓ カスタマーソリューション 前期に計上した関係会社株式売却益の剥落等

主要計数の推移



* 17/3期から21/3期については、三菱UFJリース実績と日立キャピタル実績の合算値



* 08/3期から21/3期については三菱UFJリース実績

01 | 2026年3月期 第3四半期決算概要

02 | セグメント関連情報

03 | 2026年3月期 業績予想

04 | 参考情報

2026年3月期3Qにおける主な事業上のトピックス

■:ビジネスモデルの進化・積層化 ■:変革を促す仕組み ■:組織横断での重要テーマ

2025年10月

- ✓ グループ会社である三菱HCキャピタルリアルティが、リノベると不動産の再生を軸としたプロジェクトマネジメント事業に関する合弁契約を締結し、リテラムを設立。
- ✓ インドネシアにおける新たなEEaaS^{*1}市場の開拓のために、グループ会社であるManajemen Unggul Lestariが、インドネシア企業Synergy Efficiency Solutionsと業務提携契約を締結。
- ✓ Nexa Ware、ロジスティード、椿本チエインと当社の4社による、物流倉庫向け遠隔フォークリフト操作システムの実証実験開始を発表。
- ✓ 中銀リースと当社が提供するGX Assessment Lease^{*2}に関する連携協定の締結を発表。



1 アイデアソン「CLAP WakBiz」の様子

2025年11月

- ✓ 国内最大規模となる新事業創出アイデアソン「CLAP WakBiz」を開催。上場企業を中心に104社の新事業開発担当者と当社社員が参加。
- ✓ AI開発用GPUデータセンターを活用した新たなビジネスモデルの構築などを目的に、ハイレゾと資本業務提携契約を締結。
- ✓ 完全自動運転の実現に向けた共同サービスの構築をめざすべく、Turingと資本業務提携契約を締結。



2 ハイレゾグループが開発・運営するAI開発用GPUデータセンター(香川県)

2025年12月

- ✓ 山梨中銀リースとGX Assessment Leaseに関する連携協定の締結を発表。
- ✓ グループ会社であるMHCリニューアブルネットワークスとエコスタイルは、低圧太陽光発電所の取得・集約を目的とした共同出資による特別目的会社の設立を発表。
- ✓ 物流拠点の自動化・効率化の促進のために、独自開発のリニアモータを使用した都市型立体ロボット倉庫システム「CUEBUS(キューバス)」を提供するCuebusと資本業務提携契約を締結。



3 都市型立体ロボット倉庫システム「CUEBUS」の製品イメージ

*1 Energy Efficiency as a Service

企業が初期投資なしでエネルギー効率の改善を実現できるサービスモデルであり、サービスプロバイダーが提案から設備導入・運用を包括的に提供し、得られた省エネ効果から報酬を得る仕組み

*2 お客さまの低炭素設備の導入を支援する当社独自のリース割賦プログラム

セグメント別利益①(四半期別)

(億円)			25/3期					26/3期				
			1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	前四半期比	前年同期比
1	カスタマーソリューション	インカムゲイン	270	260	267	312	1,112	287	280	271	-9	+3
2		アセット関連損益	7	2	6	5	22	13	3	6	+2	0
3		経常利益	117	73	107	159	458	131	128	115	-12	+8
4		セグメント利益	103	52	75	136	368	90	89	105	+16	+29
5	海外カスタマー	インカムゲイン	342	346	352	357	1,399	336	322	381	+58	+28
6		アセット関連損益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7		経常利益	45	10	-1	5	60	25	25	110	+84	+111
8		セグメント利益	32	7	-4	-8	26	10	17	82	+64	+86
9	環境エネルギー	インカムゲイン	8	5	11	53	79	3	-18	6	+24	-4
10		アセット関連損益	0	-40	0	40	0	-	-	-4	-4	-4
11		経常利益	-12	-139	4	74	-73	-15	-32	-23	+9	-28
12		セグメント利益	3	-98	-7	150	47	-10	-32	-31	0	-24
13	航空	インカムゲイン	207	158	170	152	690	302	186	279	+92	+108
14		アセット関連損益	77	19	26	43	167	46	-11	27	+39	+1
15		経常利益	209	114	151	153	629	263	114	248	+133	+96
16		セグメント利益	159	94	117	101	472	190	83	181	+98	+64

セグメント別利益②(四半期別)

(億円)			25/3期					26/3期				
			1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	前四半期比	前年同期比
17	ロジスティクス	インカムゲイン	89	94	97	95	376	203	99	102	+3	+5
18		アセット関連損益	20	13	5	9	49	33	7	10	+3	+4
19		経常利益	76	77	77	78	309	178	77	81	+4	+4
20		セグメント利益	56	60	59	56	232	135	58	59	+1	0
21	不動産	インカムゲイン	32	33	29	37	133	24	43	32	-10	+2
22		アセット関連損益	0	375	0	34	409	88	93	89	-4	+89
23		経常利益	15	382	14	54	466	111	115	102	-13	+87
24		セグメント利益	1	81	5	33	122	73	83	59	-24	+54
25	モビリティ	インカムゲイン	17	13	17	3	51	19	15	13	-1	-3
26		アセット関連損益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27		経常利益	10	7	11	-2	27	13	9	6	-2	-4
28		セグメント利益	11	8	12	-1	31	12	9	7	-2	-4
29	合計*	インカムゲイン	1,026	960	967	1,051	4,005	1,299	957	1,115	+157	+148
30		アセット関連損益	106	370	38	133	649	181	93	129	+36	+91
31		経常利益	492	551	356	535	1,935	796	442	638	+195	+281
32		セグメント利益	391	225	252	481	1,351	572	315	461	+146	+208

* 本部勘定である「調整額」を含むため、合算値とは一致しない

アセット関連損益(四半期別)

(億円)	25/3期*					26/3期*				
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	前四半期比	前年同期比
1 カスタマーソリューション	7	2	6	5	22	13	3	6	+2	0
2 売却損益	7	2	6	5	22	13	3	6	+2	0
3 減損等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 環境エネルギー	0	-40	0	40	0	-	-	-4	-4	-4
5 売却損益	0	-	0	40	39	-	-	-	-	0
6 減損等	-	-40	-	-	-40	-	-	-4	-4	-4
7 航空	77	19	26	43	167	46	-11	27	+39	+1
8 売却損益	79	40	26	66	213	46	42	30	-12	+4
9 減損等	-1	-21	0	-22	-45	-	-54	-2	+51	-2
10 ロジスティクス	20	13	5	9	49	33	7	10	+3	+4
11 売却損益	20	13	5	10	50	33	7	10	+3	+4
12 減損等	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
13 不動産	0	375	0	34	409	88	93	89	-4	+89
14 売却損益	13	370	9	54	447	90	90	115	+24	+105
15 減損等	-12	4	-9	-20	-37	-2	3	-25	-29	-16
16 アセット関連損益 合計	106	370	38	133	649	181	93	129	+36	+91
17 売却損益	120	428	47	177	773	184	144	162	+18	+114
18 減損等	-14	-57	-9	-43	-124	-2	-51	-32	+18	-23

* 売上総利益ベース

セグメント別特記事項(アセット関連損益を除く)

		25/3期*	26/3期*
1	カスタマーソリューション	1Q:【+】 関係会社株式等の売却益:約30億円 2Q:【-】 個別案件における大口の貸倒関連費用:約10億円 4Q:【+】 政策保有株式等の売却益:約35億円	3Q:【+】 政策保有株式の売却益:約35億円
2	海外カスタマー	1Q:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約40億円 2Q:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約80億円 3Q:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約90億円 4Q:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約85億円 【-】 ASEANにおける事業構造改革費用(貸倒関連費用):約25億円	1Q:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約35億円 2Q:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約30億円 【-】 過去の英国自動車ローン手数料問題に係る費用:約25億円 3Q:【-】 米州運送セクター等における貸倒関連費用:約25億円 【+】 ASEANの事業構造改革費用(貸倒関連費用)の戻入:約10億円
3	環境エネルギー	1Q:【+】 海外インフラ案件の持分売却益:約10億円 2Q:【-】 国内再エネプロジェクト案件の貸倒関連費用:約85億円 【-】 EE向け持分法投資に係る損失:約20億円 3Q:【-】 EE向け持分法投資に係る損失:約20億円 【+】 国内再エネプロジェクト案件の貸倒引当金の戻入:約10億円 4Q:【+】 EE向け持分法投資に係る利益:約20億円 【+】 海外インフラ案件に係るスワップ解約益:約20億円 【+】 海外インフラ案件に係る有価証券売却益:約130億円	2Q:【-】 持分法投資先に係る一過性の評価損:約20億円 【-】 EE向け持分法投資に係る損失:約10億円 3Q:【-】 EE向け持分法投資に係る損失:約20億円
4	航空	1Q:【+】 JSAの決算取込期間の調整影響:約60億円(税後) 【+】 MHC保有の航空機リース案件の持分売却益:約20億円 【-】 MHC保有の航空機リース取引に係る為替評価損:約15億円 2Q:【+】 MHC保有の航空機リース取引に係る為替評価益:約15億円	1Q:【+】 elfcの決算取込期間の調整影響:約89億円(税後) 3Q:【+】 返却機体の借入に係るスワップ解約益:約40億円
5	ロジスティクス		1Q:【+】 CAI、PNWの決算取込期間の調整影響:約62億円(税後)
6	不動産	2Q:【+】 御幸ビルの大口売却・株式譲渡に係る増益効果:約70億円(税後)	1Q:【+】 一般貸倒引当金の戻入:約15億円
7	モビリティ		
8	調整額	1Q:【+】 JSAの決算取込期間の調整影響:約33億円(税後)	1Q:【+】 elfc、CAI、PNWの決算取込期間の調整影響:約75億円(税後)

* 税引き前ベース。ただし、税引き後ベースの金額には「(税後)」と記載

セグメント別資産残高

(億円)		24/3期末	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比(増減)
1	カスタマーソリューション	29,665	30,045	29,969	-76
2	構成比	29.1%	27.5%	25.8%	-1.7pt
3	海外カスタマー	30,708	30,749	34,554	+3,804
4	構成比	30.2%	28.1%	29.8%	+1.7pt
5	環境エネルギー	4,166	4,863	4,923	+60
6	構成比	4.1%	4.5%	4.2%	-0.3pt
7	航空	20,200	24,481	26,817	+2,335
8	構成比	19.8%	22.4%	23.1%	+0.7pt
9	ロジスティクス	10,990	12,893	12,952	+58
10	構成比	10.8%	11.8%	11.2%	-0.6pt
11	不動産	5,254	5,705	6,019	+314
12	構成比	5.2%	5.2%	5.2%	0.0pt
13	モビリティ	519	588	633	+44
14	構成比	0.5%	0.5%	0.6%	+0.1pt
15	調整額	290	28	159	+130
16	構成比	0.3%	0.0%	0.1%	+0.1pt
17	セグメント資産残高 合計	101,794	109,356	116,029	+6,672

セグメント別契約実行高

(億円)		24/3期3Q	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比(増減)	前年同期比(増減率)
1	カスタマーソリューション	7,287	6,617	6,647	+30	+0.5%
2	海外カスタマー	10,371	10,461	12,004	+1,542	+14.7%
3	欧州	6,018	6,620	8,350	+1,729	+26.1%
4	米州	3,193	2,750	2,722	-27	-1.0%
5	中国	278	197	37	-159	-80.8%
6	ASEAN	881	893	893	0	0.0%
7	環境エネルギー	143	164	110	-53	-32.8%
8	航空	2,802	4,502	2,673	-1,828	-40.6%
9	ロジスティクス	291	1,845	1,115	-730	-39.6%
10	不動産	1,150	1,364	1,319	-45	-3.3%
11	モビリティ	119	82	113	+30	+36.9%
12	調整額	-63	-	0	0	-
13	契約実行高 合計	22,103	25,038	23,984	-1,054	-4.2%

(億円)	24/3期3Q	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比(増減)	前年同期比(増減率)
1 カスタマーソリューション	22	39	12	-27	-69.5%
2 海外カスタマー	123	281	163	-118	-42.0%
3 欧州	38	49	62	+13	+26.7%
4 米州	77	212	91	-120	-56.9%
5 中国	13	8	0	-8	-100.4%
6 ASEAN	-6	11	9	-1	-17.5%
7 環境エネルギー	1	73	-1	-74	-101.5%
8 航空	-64	-9	-9	0	-
9 ロジスティクス	0	0	0	0	+321.3%
10 不動産	1	12	-14	-26	-217.9%
11 モビリティ	0	0	0	0	-
12 調整額	0	0	0	0	-
13 貸倒関連費用 合計	83	396	152	-244	-61.7%

(百万円)	24/3期3Q	25/3期3Q	26/3期3Q	前年同期比(増減)	前年同期比(増減率)
1 売上高	1,425,097	1,551,957	1,659,730	+107,773	+6.9%
2 売上原価	1,155,066	1,205,454	1,271,667	+66,213	+5.5%
3 資金原価	150,333	199,576	204,005	+4,429	+2.2%
4 売上総利益	270,031	346,503	388,063	+41,560	+12.0%
5 販売費及び一般管理費	168,386	208,597	193,189	-15,407	-7.4%
6 人件費	89,762	91,798	96,709	+4,911	+5.4%
7 物件費	68,501	75,483	77,908	+2,424	+3.2%
8 貸倒引当金	10,123	41,314	18,571	-22,743	-55.0%
9 営業利益	101,644	137,905	194,873	+56,967	+41.3%
10 経常利益	104,301	140,038	187,858	+47,820	+34.1%
11 特別利益	8,531	8,037	3,714	-4,322	-53.8%
12 特別損失	463	21,311	1,280	-20,031	-94.0%
13 税金等調整前四半期純利益	112,369	126,763	190,293	+63,529	+50.1%
14 親会社株主に帰属する四半期純利益	80,581	87,016	134,972	+47,955	+55.1%

連結貸借対照表 関連項目等

(百万円)	24/3期末	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比(増減)	前期末比(増減率)
1 現金及び預金	366,478	313,399	299,674	-13,725	-4.4%
2 自己資本	1,685,267	1,789,625	1,915,679	+126,053	+7.0%
3 純資産合計	1,705,345	1,804,523	1,932,267	+127,744	+7.1%
4 総資産額	11,149,858	11,762,332	12,518,910	+756,577	+6.4%
5 セグメント資産残高	10,179,473	10,935,652	11,602,904	+667,252	+6.1%
6 営業資産残高	9,825,993	10,496,880	11,161,536	+664,655	+6.3%
7 持分法投資残高	177,850	279,263	285,352	+6,089	+2.2%
8 のれん・投資有価証券等	175,629	159,508	156,014	-3,493	-2.2%
9 破産更生債権等	122,035	87,005	84,587	-2,417	-2.8%
10 貸倒引当金	66,983	40,711	37,059	-3,652	-9.0%
11 ネット破産更生債権等	55,051	46,293	47,527	+1,234	+2.7%
12 自己資本比率	15.1%	15.2%	15.3%	+0.1pt	-
13 ROE	7.7%	7.8%			
14 ROA	1.1%	1.2%			

連結貸借対照表 関連項目等(続き)

(百万円)	24/3期末	25/3期末	26/3期3Q末	前期末比(増減)	前期末比(増減率)
15 有利子負債	8,439,792	8,840,797	9,459,063	+618,265	+7.0%
16 間接調達	4,919,380	4,916,445	5,348,658	+432,212	+8.8%
17 直接調達	3,520,411	3,924,352	4,110,405	+186,053	+4.7%
18 CP	784,178	965,408	1,133,034	+167,625	+17.4%
19 債権流動化	565,959	580,796	635,151	+54,354	+9.4%
20 社債	2,170,273	2,378,147	2,342,219	-35,927	-1.5%
21 直接調達比率	41.7%	44.4%	43.5%	-0.9pt	-
22 長期調達比率	82.5%	81.1%	78.9%	-2.2pt	-
23 外貨調達比率	60.6%	61.1%	62.8%	+1.7pt	-

主な海外子会社決算に適用する為替レート*					
	25/3期3Q			26/3期3Q	
	12月決算の主な海外子会社	3月決算の主な海外子会社		3月決算の主な海外子会社 (決算期を変更した子会社を除く)	決算期を変更した海外子会社 (elfc、CAI、PNW)
24 損益計算書(PL)適用レート	\$1=151.29円	£1=195.43円	\$1=152.57円	£1=198.95円 \$1=148.74円	\$1=149.71円
	25/3期末			26/3期3Q末	
	12月決算の主な海外子会社	3月決算の主な海外子会社		3月決算の主な海外子会社 (決算期を変更した子会社を除く)	決算期を変更した海外子会社 (elfc、CAI、PNW)
25 貸借対照表(BS)適用レート	\$1=158.18円	£1=193.82円	\$1=149.52円	£1=211.43円 \$1=156.56円	\$1=156.56円

* 12月決算の主な海外子会社⇒PLは1月～9月の期中平均レート、BSは25/3期末:2024年12月末時点、26/3期3Q末:2025年9月末時点の為替レートを適用
3月決算の主な海外子会社(決算期を変更した子会社を除く)⇒PLは4月～12月の期中平均レート、BSは25/3期末:2025年3月末時点、26/3期3Q末:2025年12月末時点の為替レートを採用
決算期を変更した海外子会社⇒当期のPLは2025年1月～12月の期中平均レート、BSは26/3期3Q末:2025年12月末時点の為替レートを採用

ホームページ上で掲載している主な当社に関する情報

2025中計進捗



2024年3月期からの3年間を対象期間とする中期経営計画「2025中計」について、進捗状況を掲載。



統合報告書



中長期的な価値創造の全体像や経営戦略、業績、ESG情報などの財務情報・非財務情報をあわせて掲載。



ESGデータブック



ESG(環境・社会・ガバナンス)に関する取り組みやデータについて掲載。



決算データシート



過年度の決算関連数値について、Excel形式で掲載。



インベスターズガイド



当社グループについて、基本情報やセグメントごとの事業内容などを掲載。



事業別説明会資料



過去に実施した事業別説明会資料を掲載。



個人投資家向け資料



過去にオンラインで実施した個人投資家向けの会社説明会資料を掲載。



お問い合わせ先

コーポレートコミュニケーション部
03-6865-3002

当社HPアドレス

<https://www.mitsubishi-hc-capital.com/>

三菱HCキャピタル

検索



CMタイトル

「挑戦する力を、リースする会社。」



 CMギャラリー

CMおよびCMの
メイキング映像を
公開しています。



CM



Making





[← 目次に戻る](#)